

受講番号 19050 学校名 高知江の口養護学校 氏名 岡崎 路子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 中学部3年生 生徒数 2 名
科目名 3学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZEN English Course

クラスの様子・特徴

病弱養護学校で心身症の生徒も在籍しており、少しのストレスに対しても弱い生徒が多い。病的には比較的安定しているクラスであるが、人数が少なく競い合う環境も少ない。心身の状況や学力においては個人差がある。

問題の確定

英語学習に苦手意識を持っている生徒がいるので、基礎学力の定着を図るためにどこから取り組みばよいだろうか。

予備調査

A 授業の観察

単語を覚える段階で、発音とスペルの関係が理解できていないため苦労しているようだ。単語テストをすると、友達の点数は気になるようだ。

B 生徒による授業評価

英語は苦手であるが、授業には一定意欲を持って取り組んでいるし、英語の力が少しずつついてきていると評価している。

C 学力データ

単語テストをできるだけ毎時間行うようにしている。単語テストの勉強をすることで、覚えなければという意識はついてきているが、それが定期試験の結果に成果が現れるまでには至っていない。

リサーチ・クエスト

学力の定着を図るために、単語を中心とした基礎基本の徹底を行うことで、英語に対する苦手意識を少しでも減らすことが出来るのではないか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 新出単語や本文を何回も読み、読み方が分かることで書けるようになるのではないか。

実践1

⇒ 授業の中で出来るだけ時間をとり、読むことが出来るように友達同士でも練習しあった。また、本読みカードを作り、家庭学習で本を読むことに取り組んだ。

検証1

みんなで読むときにはだいたい大きな声が出始めた。友達との活動も笑顔が見られた。しかし、一人ずつになるとまだ自信がなさそうであった。本読みカードの確認を定期的実施することが出来ず、確認印がついていないときがあった。

仮説2

⇒ 単語の覚え方を工夫すれば、より負担にならず覚えることが出来るのではないか。

実践2

⇒ 新出単語を導入するときには、文字と発音のルールに触れ読み方を説明した。また、覚えにくい単語は共感を示しながら、本人の覚えやすい覚え方を見つけた。また、単語を覚えるときには必ず発音しながら書くように毎回指導した。

検証2

音のルールを繰り返し説明しながら導入しているが、それが定着するのには時間がかかるようだ。発音されないアルファベットを抜かしたり、bとdの書き間違いがまだ時々見られる。

仮説3

⇒ 単語テストを毎時間行い、生徒同士で採点することで競争心を芽生えさせ、覚えなければならないという意識を習慣化することで単語の定着につながるのではないか。

実践3

⇒ 単語一覧表を渡し、箇所を指定してテストを行い、生徒同士で採点をしあった。年度当初は、英語に苦手意識が強かったため、覚える数を一回に5個を指定しテストを行っていたが、徐々に慣れを感じたところで、数を増やしていった。点数が60点以下なら休みに再度確認テストをした。また、テストの後、どうして間違えたのか読みの確認をしたり、もう一度覚えやすい方法を話し合ったりし、次回につなげるように対応した。

検証3

生徒同士で採点をしたことや、点数が悪かったら休みに再テストをしたことなどで、テスト勉強をすることが少しずつ習慣化してきた。単語テストに慣れて、一度に覚える数を増やすことが出来たので、10月ごろから同じ範囲を2度繰り返してテストをすることが出来た。一度のテストでは定着率が低かったが、2度することが出来たので、効果が高くなった。

研究の成果

英語学習に苦手意識があったので、取り組みやすい単語から始めた。少しずつ生徒の様子を見ながら負担をかけすぎないように取り組んでいった。少し時間はかかっているが、覚えることが出来る単語の量が増えてきた。同時に短文を覚えて書く作業にも取り組むことが出来始めた。また、家庭学習に取り組む様子が報告されるようになってきた。繰り返すことで定着していく量も少しずつではあるが増えてきている。

今後の授業改善の課題

まだ練習量が不足している。今は知っている語彙数を増やし、英語を身近に感じるようにと思い取り組んだ。しかし、これからはそれが使える指導へと繋げていかなくてはならない。書くスピードは出来てきたので、音読筆写の機会を多くしようと考えている。まだやらされているという範囲を抜け切れなかったのが、成果を生徒にフィードバックすることで、達成感を持たせ意欲へとつなげていく必要がある。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-823-6737

電子メール

#REF!